

小学校中学年用

放課後の教室で

放課後の教室で

「ヒロコちゃん、気にしてないの。昼休みのこと。」

くつ箱の前でアキコが声をかけてきた。昼休みにドッジボールをしてたときのことだ。外野から投げられたボールをヒロコがうまく受けられず、相手にとられてしまったとき、『もう、しっかりしてよ。』とマユミがせめたてたのだ。いやな気持ちがしたが、ヒロコは何も言えずにうつむいた。こういうとき、自分の思っていることをなかなか言えない。小さなころからそうなのだ。

「あつ、今日、習いごとがあるんだった。先、帰るね。」

そう言つてアキコはかけ出した。ふと見ると、アキコのランドセルにリコーダーが入れてある。ヒロコは足を止めた。

(リコーダー、教室だ。明日テストだから、持って帰って練習しないと。)

めんどくさいなと思いつつ、ヒロコは教室にもどった。

放課後の教室はがらんとしていた。ヒロコがいそいで自分の席に向かおうとすると、何かが足に引っかかり、思わずこけそうになった。マユミのつくえの横にかかっていた体そう服入れだつた。

「あぶないなあ、もう。かけたらだめって言われてるのに。」

いらいらしながら、足にからんだ体そう服入れを取り、マユミのつくえにたたきつけた。ふと、足もとを見ると、えんぴつが落ちていた。ヒロコはため息をつきながらひろった。名前が書いていなかったが、とりあえずマユミのつくえに置いた。と、そのとき、ヒロコの頭を昼休みの出来事^{できごと}がよぎった。かあつと頭に血が上った。思わず、マユミのつくえいっぱい、えんぴつでバツ印を書いた。

(書きちゃった……。でも、マユミちゃんが悪いんだ。)

えんぴつをマユミのつくえに投げ出し、逃げるように教室からかけ出した。

(どうしよう。明日の朝、マユミちゃんがあるを見たら……。みんなが来る前に行つて消しちゃおうか……。)

その夜、ヒロコはなかなかねむりにつくことができなかった。

次の日の朝、ヒロコはいつもよりずっと早く家を出た。ドキドキする心ぞうの音を聞きながら、学校へと急いだ。校門が見えたそのとき、「ヒロコちゃん。」

ふりむくと、マユミがかけよってきた。

「えっ、どうしたの。こんなに早く。」

「ちようどよかった。昨日はごめんねさ。」

「……。」

「昨日の帰り、アキコちゃんに聞いたんだ。ヒロコちゃん、落ち込んでたって。ごめんね。わたし、むちゆうになつてて、きつく言うちゃった。そういうこと、よくあるんだ、わたし。人のこと考えられなくて、本当にごめん。今度から、こんなことあったら、言つてね。」

マユミの言葉に、ヒロコはただうなずくしかできなかった。マユミは、ほっとした様子で、

「よかった。昨日、アキコちゃんに言われてから気になってしかたなかったんだ。それで、今日一番にあやまろうと思つて、早く学校に来たんだ。よかった、ちゃんとあやまれて。でも、ヒロコちゃんも今日は早いね。どうしたの。」

マユミの言葉に、ヒロコの胸はドキンと鳴った。マユミは不思議そうにヒロコを見ていた。

（人のこと考えてなかったのは、わたしの方だ……。）

「マユミちゃん……わたし……。」



- あなたは、ヒロコがしたことについてどう思いますか。マユミやアキコについてはどうですか。友達と話し合ってみましょう。
- マユミの言葉を聞いたとき、ヒロコはどんなことを思ったでしょう。
- 友達と信頼し合い、助け合っていくために大切なことはどんなことだと思いますか。

3 小学校中学年用「放課後の教室で」 指導例

友達は、同じ世代に生きる者同士として、体験や話題、考え方などが似ていることが多く、成長するにしたがって、友達から受ける影響は強くなっていく。よい友達関係を築くことは、より豊かに生きるために重要であり、そのためには、互いを認め合い、様々な生活の場面を通して理解し合い、協力し助け合い、信頼感や友情を育んでいくことが大切である。こうした友達との関係は、いわゆる「いじめ」を許容する雰囲気をつくらず、いじめを許さない心情を育む上でも基盤になるものといえる。

本資料には、思っていることをはっきり言えないヒロコ、逆にすぐに言ってしまうマユミ、その二人の間にいるアキコの3人の姿が描かれている。マユミの言動に不満を感じていたヒロコが、誰もいないところでついマユミの机に落書きをしてしまう行為を中心に、ヒロコの視点から描いており、互いに理解し合い、信頼し合える関係をつくるためには、どんなことが大切であるかについて考えられるよう作成している。学習の展開では、3人それぞれの言動や思いを俯瞰しながら、よい友達関係の在り方について考えることができるが、例えばヒロコの思いを中心に話し合うことを通して、自分たちの友達関係を振り返る展開も考えられる。

◆ **主題名** 友達だから 指導内容 中2ー(3)

資料名 放課後の教室で (奈良県教育委員会)

◆ **ねらい**

ヒロコをはじめ登場人物の言動や思いを考えることを通して、友達と互いに理解し合い、信頼し合える関係をつくるために大切となることについて話し合い、よい友達関係を築いていこうとする意欲を高める。

◆ **展開**

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、友達について話し合う。	○ 友達は、自分にとってどんな人ですか。 ・一緒に遊んだり勉強したりする。 ・困っているときに助けてくれる。 ・いろいろと元気付けてくれる。	・友達がいてよかったと感じたことを聞くこともできる。自分にとってどんな存在なのかを振り返っておくようにする。	
展 開	2、資料「放課後の教室で」を読んで話し合う。	○ ヒロコがしたことについてどう思いますか。マユミやアキコについてはどうですか。 ・なかなか思っていることが言え	・板書などを活用してそれぞれの言動を丁寧に振り返り、そこから考えられることや性格などについて	

道徳ワークシート

名前（ ）

友達と信頼し合い、助け合っていくために大切なことはどんなことだと思いますか。



小学校中学年用

公園のさく

公園のさく

「ヤスヒコ、今日も新池公園に集合な。」

ぼくの家近所にある公園が新池公園だ。放課後にしょっちゅう友達と集まって遊ぶ。シーソーやブランコなどの遊具もおいてあって、小さな子どももよく遊んでいる。うちのとなりの四さいのハルキ君は、ブランコが大のお気に入りですぐ乗っているすがたを見かける。まあ乗り方を教えてあげたのはぼくなんだけどね。

家に帰って、カードを持って急いで公園に行った。すでにヒデオは着いていて、ぼくを待っていた。

「おそいで、ヤスヒコ。早く始めよう。」

さっそくぼくたちはカードゲームを始めた。最近、はやっているんだ。ゲームをしながらブランコの方を見ると、今日もハルキ君が来ているのが見えた。こっちを見て手をふってる。ぼくも手をふり返した。

ひとしきりゲームをしたぼくたちは、休けい場所に行くことにした。休けい場所というのは、ぼくたちだけのひみつの場所で、実は公園と新池との間のさくの上なんだ。さくの上にかかると、新池からのすずしい風がふいてきて気持ちがいい。いちおう、「あふないので登ってはいけません」と書いてあるんだけどね。そんなに高くもないし、乗りこえて池に入ってるわけでもないから大じょうぶ。

「あ、おつかいをたのまれてたのわすれてた。もう帰らないと。バイバイ、ヒデオ。また明日も来ような。」

おつかいをすませて、ぼくが家でテレビを見ていると、仕事を終えたお母さんが帰ってきた。

「おかえり、お母さん。」

「ヤスヒコ、大変や。おとなりのハルキ君が公園でけがして救急車で病院に行ったで。」

え。ぼくはドキッとした。ついさっきまでハルキ君、元気に遊んでいたのに。

「ハルキ君、新池のところのさくから落ちて頭を打ったらしいわ。なんであんなさくの所なんかに行ったんやろ。」

まさか。ハルキ君……。

「ヤスヒコ、どうしたの。何もしやぐらならで。」

お母さんが、じつとだまっているぼくを見て言った。

「……お母さん……ぼく……。」



○ さくの上にとしかけて休けいするのを、ヤスヒコはどう考えていたでしょう。

○ ハルキ君のけがのことを聞いたヤスヒコは、どんなことを考えていたでしょう。

4 小学校中学年用「公園のさく」 指導例

中学年の児童は、気の合う友達と遊ぶ中で行動範囲が広がり、自分たちで様々なことを決めるなどの傾向が見られる。こうした時期に、社会生活上のルールやきまりなどについて理解し、それらを遵守するよう指導することが大切である。本資料では、身近な公園にあるルールを取り上げ、そのルールがなぜ決められているのかということに初めて思い至る主人公の姿を描いている。ルールやきまりの意義について考える機会とすることはもちろん、ある行動を取ることで、その後どういう影響が考えられるかという想像力を働かせることは、道徳的判断力を育む上で重要であると考え、本資料を作成している。

展開前段では、ヤスヒコたちの思いを中心に、自分たちの楽しみのために深い考えもなくルールを破ったことや、自分たちの安全という視点からしかルールの意味について考えられなかったために起こった出来事について、じっくりと話し合えるようにしたい。話し合いを通して、社会生活上のルールやきまりの意義について考えを深めるとともに、それらを遵守することは社会生活における義務でもあるということを理解させることが大切である。また、展開後段では、身近な生活の中にあるルールやきまりについて振り返るようにし、それらがどうして決められているのか、守らなければどのようなことが起こると考えられるのかについて話し合い、規範意識を高め、道徳的判断力を培うようにしたい。

- ◆ **主題名** 大切なきまり 指導内容 中4－（1）
資料名 公園のさく （奈良県教育委員会）

◆ **ねらい**

自分たちの楽しみのため、深い考えもなくルールを破ったことから起こった出来事と、それを知ったときのヤスヒコの深い後悔について話し合うことを通して、ルールやきまりの意義について理解し、それらを遵守しようとする態度とともに道徳的判断力を培う。

◆ **展開**

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、公園を使うときのルールについて話し合う。	○ 公園を使うときのルールはありますか。 ・ゴミは持って帰る。 ・野球は禁止されている。 ・自転車は決められた所にとめる。	・実際に守っているかを振り返ることがねらいではない。ここでは出し合うだけにとどめ、展開後段での話し合いにつなげるようにする。	
展 開	2、資料「公園のさく」を読んで話し合う。	○ 新池公園で遊び始めたとき、ヤスヒコはどんなことを思っていたでしょう。 ・今日もゲームを楽しむぞ。 ・今日もハルキ君、遊具で遊ぶのかな。 ○ さくの上にこしかけて休けい	・ヤスヒコの思いとともに、新池公園がどんな公園であるかなどの状況も併せてとらえられるようにする。 ・二人だけの秘密の場所で	

展		<p>することを、ヤスヒコはどう考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秘密の場所なので、そこで休憩するのがとても楽しみ。 ・落ちてけがをするような失敗はしない。 ・池に入るわけじゃないからいいだろう。 	<p>あることや、さくはそんなに高くないこと、乗り越えて池に入ることはいけないと考えていることを押さえ、深い考えや悪気なしにさくに上っていたヤスヒコたちの思いをとらえられるようにする。</p>	
開	3、自分を振り返る。	<p>◎ ハルキ君のけがのことを聞いたヤスヒコは、どんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハルキ君、きつとぼくたちのまねをしたんだ。 ・まさかこんなことになるなんて。ぼくは、自分たちのことしか考えていなかった。 ・ぼくが、ちゃんときまりを守っていればこんなことは起こらなかったのに。 <p>○ 身の回りには、どんなルールがありますか。また、どうしてそのようなルールがあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園で野球が禁止されているのは、小さい子どもも安心して遊べるようにするためだろう。 ・自転車を決められた所にとめず、好きにとめると危ないだけでなく、いざというときに救急車なども入れなくなるからかな。 ・廊下を走ると、それを低学年がまねしてけがするかもしれない。上の学年が気を付けないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母の話を聞いて、じっと黙って思い巡らせているヤスヒコの気持ちを考えるようにし、無関係であると責任逃れをすることなく、想像もできなかったことが自分のせいで起こったのではないかと恐れているヤスヒコの後悔と責任感に共感できるようにする。 ・ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。 	ワークシート
終末	4、「私たちの道徳 小学校三・四年」を開き、考えたり書き込んだりする。	<p>○ 「私たちの道徳」118～121ページを開きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちの道徳」を活用したり、指導者の体験を話したりするなど、ルールやきまりの意義を考えて遵守しようとする思いを温めるようにする。 	「私たちの道徳」

※「私たちの道徳 小学校三・四年」は、次のURLよりダウンロードできます。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1344253.htm

道徳ワークシート

名前（ ）

ヘルキ君のけがのことを聞いたヤスヒコは、どんなことを考えたでしょう。

